

【志に生きる】

今までカウンセリングやコンサルティングなど相談を受ける中で、多くのクライアントがこのようにおっしゃっていました。

「何をしたらいいか分からないんです」「やりたいことが見つからないんです」「やりたいことが分からないんです」「興味のあることが見つからないんです」

このように言っている人は、あなたの周りにもいないでしょうか。

そういった方には、私は昔から「あなたが興味を持っていることなら、何でもいいんです。まず行動に起こしてみましょ。とりあえず何でもいいからやってみましょよ！」とアドバイスをしていましたし、今でもそうアドバイスします。

だって、「何をしたらいいか分からない、どうしたらいいか分からない」ということは、「何をやったって良いということ」なんです。

しかし多くの方はこの感覚が掴めませんし、理解に落とせません。実際にほとんどの方がそうだと思います。

逆にやりたいことがいっぱいある人にとっては、不思議に思うことだと思います。行動に起こしている人にとっては、行動に起こさないことがどれだけもったいない時間の使い方なのか痛感しているからです。

でも、そういった悩みを持っている方は、実際は「興味がない」のでも「何をしたらいいか分からない」のでも「どうしたらいいか分からない」のでもないんです。

正しくは「どこを目差したらいいのかが分からない」「どこに向かったらいいか分からない」ということなんです。つまり、理想がない、志がないということなんです。

目指す方向が分からないのだから、何をやったらいいかは見えていません。理想や志は生きるという点において精神的土台と言えるものです。だから、目の間の事に興味なんて湧きません。むしろ湧くほうが不思議です。

こういった悩みを持つ人に、「自分の好きにやったらいいですよ」と言っても、理想がないのなら、志がないのなら、そのアドバイスも全くもって意味をなさなくなります。

例えば、あなたが健康を意識しているなら、自ずと食べるモノの選択は決まってきますし、調整もするはず。しかし、別に健康を意識していない、さらに食に興味がないのなら、「食べ物なら何でもいい」となりますし、「食べたいモノはありますか？」と聞かれても「別に何でもいい」と応えるはず。す。

これと人生が同じようになっていると考えると考えてください。未来が見えてない、未来を定めてないので、今何を選択したらいいのかが分かるはずもないのです。

脳大成理論 2-4

「世界平和」だの、「世の中を良くする」だの、「人の為になることをする」と言っただけで、何が本当に人の為になることなのか、今何が問題なのか、それが分かっていなければ意味がありませんし、見いだせるはずもありません。

今、わたし達大人は、子どもや若い世代に「人間として、わたし達がどこを目差すべきなのか」ということを教えることがなくなりました。古くは偉人や歴史上の人物は往々にしてどこを目指すべきなのかを語っていました。それにも関わらず、学校では探究学習やアクティブラーニングなど「自分で考える」という教育方針が基本となり、盛んになってきています。

しかしこれらは、全くもって大人の手抜きだと言わざる終えません。指導的立場の方々の怠慢だと言わざる終えません。

なぜ「人間としてどこを目指していけばいいのか」が見いだせないのでしょうか。それは、「何が正しいのか」が明確に分かっていないからなのです。何が正しいのかが分からなければ、どこに向かっていけばいいのか分かるはずもありません。例えば、「人は人に対して親切に接するものである」と分かっているのなら、その考えを土台に自分はどこに向かっていけばいいのかは見いだせます。昔は宗教などで、人間としてどこを目指していくべきなのかに触れる事ができましたし、そういったことを教えてくれるものが社会にしっかり根付いていました。宗教と言うよりも、信仰心と言う方が一般的でしょうか。信仰心とまでいわなくても、道徳心がちゃんとあって、わたし達が人としてどう生きていくのが正しいのかを社会が教えてくれました。

間違ったことをした子供を、大人は、先生は、本気で叱りました。

私が小学校低学年の頃の記憶です。私が住んでいた市営住宅のロータリーで、友だちとゴムボールとプラスチックバットで野球をしていたら、そこに、逢ったこともないおじさんが近づいてきて「ここで野球をやったらだめだろうが！」と強い語気で言い、ゴムボールを噛みちぎりました。私は泣きながら噛みちぎられたゴムボールを持って家に帰り、母親に「おじさんがボールを壊した！」と泣きながら話しました。母親は「どうしたの？何があったの？」と私に聞き、私は何があったのかを話しました。すると母親は「良かったね、叱ってくれて。これからは遊んじゃいけない所では遊ばないようにしなさいね」と私は諭しました。

私は学生の頃、不良でしたが「何が正しいのか」ということは、どんな不良でも心の深いところではちゃんと分かっていた。良心がちゃんとそこにはあったのです。

今は、ネットだの何だので「正しい間違いなんて、そんなものは洗脳だ」「社会はあなたを洗脳している」「正しいことなど観点の問題だ」なんて言っている人がいます。

脳大成理論 2-4

ひどいものでは「学校教育はすべて洗脳だ」「親が言っていることを受け容れていたら夢なんて叶えられない」なんて発信している人もいます。

全くもってゆがんでいますし、間違っています。そしてこれらの風潮は本当に恐ろしいことです。

そんな風潮の中、そういった論調に翻弄され、何を目差すべきか、何が正しいのかを見失った大人が社会に溢れてしまいました。

どこを目差せばいいのか、どこに向かって生きていけばいいのか、そりゃあ、理想や志がないのだから、何をすればいいかなんて分かるはずありません。やりたいことが分からないというのも、そういった視点で考えてみたら、そりゃあ当然のことでしょう。

決して思想を固定しようとしているわけでも、そう言っているわかでもありません。人の数だけいろんなやり方があっていいんです。人の数だけいろんな考え方があっていいんです。どう考えるのか、何をするのか、それは個人の自由です。

自殺をしようとしている人と話しをした時に、なぜ自殺をしようとしているのかというプロセスを聞くと、あまりに不運であまりに悲惨で、どうしようもない現実があって、さらにそれを体験した本人から聞くと、ともするとこちらは「それなら自殺しようと思っても仕方ないかな…」 「確かにそんなに辛いのなら、生きていく方が苦しいのかもしれない…」とこちらが説得され納得してしまうようなことがあります。

しかし、どんな理由だとしても、自殺を容認するわけには行きません。それは間違っているからです。

人は生きるために生まれてきたのです。生きることが正しいことなのです。どんな行いをして、どんな経緯があったとしても、自分で自分の生命を絶つことがあってはいけません。これは絶対にゆがめてはいけないことなのです。世界的に人口が増加していて、食料問題が起こったとしても、それは人口を減らすという発想になってはいけません。人類の英知を集合させ、何らかの解決方法を見いだすべきなのです。

このように、絶対的な基準となる正しさがなくてはなりません。そして、その正しさに基づいて、延長に未来を見いだしていくのです。

だから、あなたに理想や志がないのであれば、未来に向かう事はありません。あなたが過ごしている時間は過去の繰り返しであり、過去の延長です。

理想に生きる、志に生きる。これは精神的な視点で見るところの、人生のスタートであると言えます。

だから、わたし達は活動をしているのです。
多くの大人に、それを分かってもらうために。